

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	乳幼児健康診査事業			事業コード	0315
所属コード	069200	課等名	健康推進課	係名	母子保健担当
課長名	津志田 和彦	担当者名	田中 ゆう子	内線番号	6211
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	みんなで支える子育て支援の展開	コード	6
	基本事業	母子保健・予防の推進	コード	3
予算費目名	一般会計 4 款 3 項 2 目 乳幼児健康診査事業 (002-04)			
特記事項	総合計画主要事業, 新市建設計画事業			
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 33 年度	
根拠法令等	母子保健法			

(2) 事務事業の概要

乳幼児の健康の保持増進を図り、疾病や発育発達及び育児環境上の問題を早期発見し、適切な支援を行うことを目的に月齢を区切り、個別あるいは集団方式での健康診査を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

母子保健法により、市町村にて乳幼児の疾病や発育発達上の問題を早期に発見し、適切な支援をするために開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 22 年度から、個別健診を岩手県医師会に所属する医療機関でも受診できるよう拡大した。平成 23 年度から診療報酬に改定に伴い健診単価を 5,600 円 (30 円アップ) に引き上げた。平成 24 年度より 3 歳児健診を二段階方式に変更し、健診単価も 1 歳 6 か月児健診 3,450 円、3 歳児健診 3,710 円に変更した。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

下記の対象月齢の乳幼児とその保護者

- ・ 1～2 か月児
- ・ 3～4 か月児
- ・ 6～7 か月児
- ・ 9～10 か月児
- ・ 1 歳児

- ・ 1歳6か月児
- ・ 2歳児
- ・ 3歳児

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 乳児期の対象者数	人	12,545	12,594	12,594	12,525	12,900
B 幼児期の対象者数	人	9,854	9,836	10,300	9,892	10,300

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

- ・ 1～2か月から1歳児健診，2歳児健診については，指定医療機関をでの個別健診方式
- ・ 1歳6か月児健診は集団と個別の2段階方式
- ・ 3歳児健診は集団健診
- ・ 1歳6か月，2歳児，3歳児健診の結果，精密健診を実施し，早期治療へつなげる。また，育児の支援が必要な場合，適切な対応をとる。
- ・ 健診の周知に関しては，出生及び転入者への赤ちゃん手帳の交付，広報掲載，幼児健診対象者への個別通知
- ・ 1歳6か月児健診，3歳児健診未受診者への受診勧奨

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 乳児の個別健診受診数	人	11,839	11,590	12,000	11,713	12,000
B 幼児の集団・個別健診受診数	人	8,895	8,884	9,500	9,150	9,500
C 幼児の精密健診受診者数	人	198	168	160	160	160

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

専門スタッフの支援により，乳幼児の健康の維持及び問題の早期解決をはかり，保護者が不安なく育児に向かうことができる

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 健診受診率	■上げる □下げる □維持	%	92.6	91.3	95	93.1	95
B 精密健診受診率	■上げる □下げる □維持	%	62.6	62	95	67.2	73
C 乳幼児期の育児のポイントがわかり，不安なく育児できると答えた保護者の割合	□上げる □下げる	%	-	95	95	-	93

合(隔年実施)	■維持						
---------	-----	--	--	--	--	--	--

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	106,417	106,788	108,193	109,402
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	106,417	106,788	108,193	109,402
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	4,634	4,634	4,634	4,634
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	18,536	18,536	18,536	18,536
計	トータルコスト A+B	千円	124,953	125,324	126,729	127,938
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

発育発達が著しい乳幼児期に、月齢を区切り医療機関等が細やかな支援を行うことで、健康の保持増進、子育て不安の解消につながり、施策体系に結びつく。

② 市の関与の妥当性

法定事務であり、妥当である。

③ 対象の妥当性

法定事務であるため、現状で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

乳幼児の健康保持と適切な支援が行えない。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

各月齢の健診受診率を向上させる。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

公平に受診機会を与えており、受診者の費用負担はなく公平・公正である。

(4) 効率性評価

事業費・人件費の削減は、効率性が低下するため削減できない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

3歳児健診については、現在の健診体制を維持するためにも、玉山区の小児科医派遣について、盛岡市医師会との協議が必要である。また、住民サービスのため3歳児健診（一次健診）の会場を高松地区保健センターで行うことを検討する必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

3歳児健診については、玉山区も一次・二次方式で実施する場合、予算の確保が必要となる。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

乳幼児健康診査は、乳幼児の健康や発育・発達状況を確認する大切な機会であり、当市では3歳健診まで8回と比較的多い回数設定している。月齢により個別と集団を併用しているが、障がいの早期発見に果たす役割は大きい。引き続き、精度の高い健診情報を提供に努めるとともに、未受診児への保健指導などかかりつけ医等と連携を密に実施していく必要がある。

○方向付けの理由と改革改善の内容

小児科医の減少や高齢化など医療現場の現実を見据えながら、今後とも安定した健診体制を維持していかなければならない。